

我が國最初の精密三球儀

去る大正十年の或る日、京都帝國大學の天文學教室へ、山口縣から來たといふ一老人が訪れ、三球儀を作つたから見てくれと言はれるので、百濟理學士と自分と兩人が立ち合ひ、宿直室に座り込んで、之れを檢查した。主として日食と月蝕の日を檢查して見たのだが、皆實によく當つた。田舎出の一見たゞ朴訥な老人としか見えなかつたけれど、永い年月を費して此の精密な器械を作られたとは實に驚き入つた次第であつた。名は朝枝松太郎と言はれた。氏は其の後間もなく死なれたが、自分は旅中に一度其の舊宅を訪ね、遺族の方々に會つて、老人の生前の思ひ出を聞いたことがあつた。(山本一清)

三球儀の寫眞に添えて

拜 啓

大變御寒になりました。あの花山に於て、然も寒天に仕事をせられる皆様には、随分御寒いことと拜察致します、と共に、むしろ勇壯なる感が致します。さて、小生は、數年來、各會合に置きまして、先生の御講演を色々拜聴して居るものであります。幾年か前、先生に廣島にて御目にかかりましたとき、御聞きしました柳井町に於ける「三球儀」を、やつと數日前探し當まして、大いに愉快でした。先生の十餘年前の御寫眞やら、御手紙等もあり、機械は、作者の朝枝松太郎氏が十數年前に逝去せられ、そのまゝになつて居りますが、御令孫が子供の頃のことを可成りよく記憶せられますので、器械を組立てて頂き、色々説明して頂きました。三球儀は十年餘を費して出來上つたもの丈に、全く精巧を極め、感服の外ありません。第1期の作品から合せて3臺あります。皆寫眞を撮らせて貰ひましたので、御送り致します。先生の昔の思ひ出にもなりますれば、幸と存じます。 不 一

昭和8年12月19日

柳 井 中 學 校

満 本 達 雄

山 本 先 生